

# 平成31年度 東京都立中野工業高等学校(全)学校経営計画

校長 橋本 広明

## 目指す学校

本校は真に自立した社会人の育成を目指す学校である。そのために、「あいさつを大事にして職業人としての立ち居振る舞いができる生徒」、「就職・進学試験に合格できる学力の定着」を育成目標として掲げ、キャリア技術科の特色を生かして、教職員が学習指導、進路指導、生活指導、自立支援等に組織的に取り組む学校を目指す。

## 具体的な学校像

- 1 人権尊重を基盤とした教育活動を推進し、いじめや体罰の無い学校
- 2 日本国民として納税の義務を果たし、社会に貢献できる社会人を育てる学校
- 3 産業界や関係機関との連携を図り、ものづくりを通して社会に貢献していく人材を育てる学校
- 4 法令を守り社会規範、社是・社訓、就業規則遵守し、適正に職務を遂行できる能力や態度を着実に身につけさせる学校
- 5 将来、就業先で上司から指示、指導・助言された内容を素直に履行できる能力や態度を育てる学校
- 6 書類作成上必要な基礎的な知識・技能と読み書き計算の能力を繰り返し、着実に身につけさせる学校
- 7 挨拶を基本とする社会人として必要なコミュニケーション能力を確実に身につけさせる学校
- 8 仕事を中心とした社会生活を送ることができる気力や体力、働く力を身につけさせる学校
- 9 基本的生活習慣を育成するとともに、規範意識をもった生徒を育てる学校
- 10 自分自身を大切にするとともに、他者に対しても思いやることのできる生徒を育てる学校
- 11 就職・進学に結びつく学力の基礎・基本を定着させる学校
- 12 教職員が一丸となって生徒に向き合い、必要な態度と能力を身につけさせる学校
- 13 保護者・地域社会から信頼され、保護者・地域社会と一体となって教育を推進できる学校
- 14 教育活動の円滑な実施に向け自律経営推進予算の手続きの遵守による計画的な予算執行を行う学校
- 15 働き方改革を推進し、教職員が生き生きと職務を遂行し、教育活動を行う学校
- 16 教職員のサービスの厳正を図り、サービス事故のない学校

## 中長期目標

- 1 平成38年度完成を目指し、全面改築及び施設・設備の改修の検討を進めることで、地域企業及び地域住民や保護者から支持され、次代を担う工業高校を創設する。
- 2 平成32年度にエンカレッジスクールとして3年間の系統的なキャリア教育の全体計画を策定する。
- 3 入学した全ての生徒の進学・就職を実現するために、段階を踏んだ学習支援や関係機関との連携を図った自立支援等のプログラムを完成させる。

## 方策

- 1 平成38年度完成予定の改築工事の基本設計に基づいて、東京都、中野区、地域社会、設計企業、学校が連携し、地域住民の理解と生徒の教育活動を維持・発展させながら着実に進めていく。
- 2 地域の関係団体及び企業等、産業界のニーズを把握するとともに、東京都や東京都中小企業振興公社、東京都商工会議所等の協力を得て、産業技術交流やインターンシップの一層の充実を図り、社会や産業界との連携を強める学校を目指す。
- 3 学習サポートプログラムや自習室、講義室の整備、勉強合宿の実施等、学習支援環境を一層整備するとともに、個別の自立支援計画を策定し、関係機関との支援会議やネットワークを整備する。

## 今年度の重点目標

## 具体的な方策

### 1 オリンピック・パラリンピック教育の推進とレガシーの継承

- 1 全ての教育活動を通じたオリンピック・パラリンピック教育の充実
- 2 体験的な活動の実施
- 3 ものづくりを通じたレガシーの継承

全ての教育活動の年間授業計画に位置付け、学校全体で組織的、計画的に取り組む。パラリンピック競技種目を行事や授業に取り入れ、体験型講演会を実施する。来日する外国人へのおもてなしとして、授業で製品を開発し、販売、寄贈等を行う。

### 2 エンカレッジスクールとして着実な教育活動の実施

- 1 SC、YSWとの連携による中途退学と自死の防止
- 2 進級・特別指導規定等、校内規定の見直し
- 3 基本的な生活習慣の改善及び定着
- 4 中途退学率10%以下
- 5 特別指導件数5件以内

自立支援事業継続校として、不登校、中途退学者、再就職者への対応を組織的に進める。生徒の実態に応じた校内規定の見直しを進め、学校に対する生徒の帰属意識と真に自立した社会人になるための意欲を高める。

### 3 キャリア教育の充実

- 1 教職員全員による企業訪問
- 2 就労生徒の増加(90%)
- 3 3年インターンシップ希望者全員参加(100%)
- 4 4年進路決定率(100%)
- 5 社会の構成員としての規範意識と自己肯定感の育成・定着

3年間の系統的なキャリア教育の全体計画を教職員に周知し、分掌横断的な連携を図った取組を行う。都や産業界主催のイベント、中小企業振興公社や東京都商工会議所との連携による産業技術交流、インターンシップ等を実施する。工業系大学との協定等、大学進学への進路開拓を行う。

### 4 生徒のチャレンジの支援

- 1 生徒をもっと外に出せ！キャンペーンを展開し、新たな課題に挑戦した生徒を賞揚する。
- 2 地域貢献活動、資格取得、研究発表大会等の支援する。

部活動の活性化、地域行事への参加、各種資格取得への取組、研究発表大会への積極的なチャレンジ・参加等を奨励し、生徒の達成感と自信、新たなチャレンジ精神を醸成する。

### 5 新学習指導要領に基づく学力観の転換と教員の授業力向上

- 1 年次計画とグランドデザインの実施
- 2 アクティブラーニング指定校としての研究の充実
- 3 教員の相互授業観察(年間2回)
- 4 教員のICT活用授業率(100%以上)
- 5 生徒による授業評価で「分かりやすい」回答率(85%以上)

ルーブリックの策定により、教科間の情報・意見交換を活発にする。AIによる研究授業と教科・類型横断的な授業を開発し、カリキュラムマネジメントを学校全体で進める。同教科、異なる教科各1回相互授業観察を実施し、ICT活用授業を学期に1回、年3回実施させる(授業観察、学校評価等で確認する)。

### 6 主権者教育の充実

- 1 全ての教育活動を通じた主権者教育の充実
- 2 主権者としての理解と啓発
- 3 体験的な活動の実施

生徒会選挙や中野区の選挙管理委員会との連携による模擬選挙等の体験的な取組を実施し、社会の一員としての自覚や有権者としての役割等について身につけるための活動を実施する。

### 7 教職員の働き方改革とサービスの厳正

- 1 職務の共有化・個別化、職務の質的転換
- 2 服務事故防止研修の意図的、継続的、計画的な実施

年間を通じた職務のスケジュール化を図り、効率的に遂行する体制をつくる。個人端末の活用、諸会議のスリム化を進める。服務事故防止研修を初め、社会、他校での事故を教訓にして、未然防止の徹底を図る。